

和白干潟通信

愛して、わじろ



No.127

2018年7月17日
発行: 和白干潟を守る会
〒811-0202 福岡市東区和白1-14-37
Tel/Fax.092-606-0012
<http://wajirohigata.sakura.ne.jp/>



未来につなごう 和白干潟

和白干潟を守る会 30年のあゆみ

(1988年~2018年)を発行しました!



和白干潟を守る会は2018年4月に設立30周年を迎えました。6月に30年誌「未来につなごう 和白干潟 和白干潟を守る会30年のあゆみ」(全20ページ)を発行いたしました。これまでの30年を振り返り、これからの希望をつくっていききたいと思います。30周年を記念して会員の皆さんにもこの冊子をさしあげます。一緒に思いを共有いただければと思います。また3月には日本自然保護協会より「日本自然保護大賞(保護実践部門)」を受賞しました。これらを記念して、6月24日にはシンポジウムを開催いたしました。多くの皆さんに和白干潟のすばらしさや重要性が広がって行くことを願っています。和白干潟を地球の宝・みんなの宝として守り継いで行きましょう!

30年誌の編集に当たっては8名の編集担当者が、20年誌の内容を引き継ぎながら、現在活動に参加している人たちの思いを集めて作成しました。全体を通してお読みいただき、和白干潟を守る会のたどってきた足跡を知っていただければ嬉しく思います。何よりも読まれた皆さんと一緒に和白干潟の保全活動にご参加いただければ、有り難く思います。また私たちの地球や自然を守ることを阻んでいることについても、考えていただければと思います。自然を守ることは、現在を生きている私たち皆の責任ではないかと思えます。この冊子を作るにあたって、ご協力いただいた多くの皆さまに感謝を申し上げます。この通信を読まれて、この冊子を希望される方には、1冊500円でお分けいたします。(通信上部に書いています。和白干潟を守る会の連絡先まで、FAXでお申し込みください。送付先のご住所、電話番号、氏名、冊数をお書きください。郵便振替用紙を同封してお送りいたします。)

和白干潟を守る会30周年・日本自然保護大賞受賞記念 シンポジウム開催

(今村 恵美子)



主催：和白干潟を守る会 共催：（公財）日本自然保護協会

6月24日（日）午後2時から4時まで、東区千早の東市民センター「なみきスクエア」視聴覚室でシンポジウムを開催しました。梅雨の時期でしたが、晴れて暑い日になり、67名の参加がありました。会場には日本自然保護大賞の表彰状、山本代表（くすだひろこ）の切り絵なども展示しました。山本代表の挨拶で「自然を守ることは命を守ることだ」という信念でこれまでやってきたこと」などを話しました。来賓紹介、福岡市長のメッセージ代読、来賓祝辞、祝電披露のあと、2時30分からシンポジウム「未来につながる和白干潟」を開始。はじめに山本代表の講演「和白干潟の自然と和白干潟を守る会の活動」がありました。四季の和白干潟の自然の豊かさを守る会の活動を紹介します。



「日本の海の保全と日本自然保護大賞」の意味

2時50分から、共催の日本自然保護協会自然保護室主任 安部真理子氏の講演がありました。日本では重要海域でも開発行為が許されていることなど保全は危機的であり、「日本自然保護大賞」は海の保護に取り組む団体を多く取り上げているということでした。前日のクリーン作戦に参加され、和白干潟の観察をされた安部さんは、和白干潟のアオサの大量発生と同様に、沖縄の泡瀬干潟ではホソエダアオノリの大量発生でサンゴや甲殻類、貝類が被害を受けていると紹介。海の保全の制度を整えるとともに、「市民が参加する」役割が重要だと話がありました。

和白干潟の生態系の重要性を各専門家が力説



日本野鳥の会福岡支部副支部長 田村耕作氏の講演「和白海岸の野鳥と自然環境」では、和白干潟の自然の様子を解説され、素晴らしい鳥の姿を紹介。「和白干潟は鳥獣保護区であり、生物多様性の宝庫」で多様な生き物が生きている環境を大事にすることを強調されました。

熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター教授の逸見泰久氏の講演「和白干潟の生きものを守るために」では、和白干潟の問題点は閉鎖性が高く、河川から流入した有機物がたまりやすいことを指摘。干潟や海水をきれいにする動物の動画も紹介。「干潟のネットワーク」の

重要性について、博多湾内の今津干潟、室見川、多々良川、香椎潟、和白干潟で鳥や植物が移動するので、どれか1つでもだめになるとほかのところにも影響するということでした。

九州産業大学建築都市工学部教授（植物生態学）内田泰三氏の講演「和白干潟の植物」では、「注視していくべき種（前編）」としてシバナ、フクドなど。後編では外来植物としてナルトサワグクなどがあり、外来種から和白干潟をどうやって守っていくかが課題であると話されました。植物の分布境界線としての「和白線」の重要性を紹介されました。

各講師の講演はわかりやすく充実した内容で、和白干潟の重要性を再認識できました。まとめてこのような話を聞ける機会は滅多にないと思いました。講演終了後、守る会メンバーの「ミヤコドリ」の合唱でシンポジウムを締めくくりました。参加者全員で記念撮影を行い、懇親会に移りました。

交流深めた懇親会

お茶とお菓子でくつろぎ、講師の先生や参加者同士の会話など和気あいあいとした雰囲気の中で4時40分に閉会しました。みんなで協力して実施したシンポジウムはとても充実していて、楽しい会でした。参加された皆様から励ましの言葉を頂き、これからの活動の意欲につながっていくと思いました。（有江）



第21期 和白干潟の自然観察ガイド講習会

「自然観察会、初心に返って」報告 (高田 将文)



6月3日(日)20名の参加者が次々と集まってくる中、講師の堀謙治先生は持参されたギターを弾きながら「500マイル」「さとうきび畑」「一人の手」など私たちに聞き覚えのある歌を歌ってくださり、和んだ雰囲気講習会の開始の時間が来ました。山之内さんの司会で始まり、山本代表が「私たちは自然観察会を続けてきました。ガイドを育てる講座を毎年開いています。ガイドには古い人、新しい人がいます。観察会の心構え、年齢の違う参加者に対する気遣いなど、ガイドの心構えを教えていただきたいと思います」と挨拶し、講師紹介がありました。「今回紹介する遊びは、そのままコピーするのではなく、自分でかみ砕いて観察会で応用してください」ということでした。

14時からフィールドワークの為、海の広場に向かいました。海の広場へ行く道すがらでも植物を見ながら講師の先生のお話は続きました。草笛の吹き方や手のフクロウ笛も教えていただきました。海の広場で「カモフラージュゲーム」をしました。ひもを張って、スタート地点からゴール地点の間に目立つものと保護色のものを置き、見つけた数を聞くものです。このゲームをした後バツタを見つけるとよく見つかるそうです。カニの巣穴に白い砂を入れて深さを観察する方法や、干潟の砂はどこからきているかという話もありました。アシ原の少し手前で写真撮影をして16時ごろきりえ館に戻りました。

きりえ館でも引き続き、マテバシイのトトロの作り方や、ゲーム・七五三の遊び方などを教えていただきました。お茶を飲みながら自己紹介をして交流をし、「ムクロジ石鹸の実験をしたことがなかったからよかったです」という感想や「観察会の時間が短い時はどうしたらいいでしょうか」という質問もでした。紹介された遊びが楽しく、講師の先生の話が多岐にわたっていて、観察会のガイドとしての視野を広げていただいた講習会でした。(有江)



観察会報告(2018年5月~6月)



5月14日(月)和白小学校5年生125名と先生4名



今回は春の渡り鳥、底生動物観察・植物(アシ原)観察を主な取り組みとして観察会を行いました。バードウォッチングではチュウシャクシギなどを見ました。アシ原の中道ではハマヒルガオなどの花が咲いていました。干潟ではアシハラガニやコメツキガニを捕まえました。沖合にはタマシキゴカイの巣が一面にありました。最後にまとめをして、捕ったカニや貝をみんなに見てもらいました。「昔はゴミがいっぱいあったのですか?」という質問が出ました。「干潟で宝物がいっぱい見つかったと思います」と山本さんがしめくくって観察会を終わりました。子どもたちにとって干潟は何度来ても楽しいところのようでした。(有江)

5月24日(木)ちどり保育園くじら組(年長児)37名と先生5名

唐の原駅から歩いて来て、海の広場の入り口で早速カニを見つけ、「カニがおったよ」と大喜びの子どもたちは「ホーホケキョ」とウグイスの声の鳴きまねもしていました。バードウォッチングでクロツラヘラサギ、カワウ、ミヤコドリなどを見ました。コメツキガニは良く見付き、アシハラガニも怖がることなく、一生懸命捕まえていました。アシ原から少し離れたところに集まって、みんなでとったものを見ました。「前歩きするカニは何ですか?」という質問が出ました。観察会の後、子どもたちは海の広場でお弁当を食べて干潟の自然に包まれて過ごしていました。今日はお泊り保育の日で、昼食後にみんなで唐原川を渡って、牧ノ鼻の方へ歩いて散歩したいと聞きました。(有江)



6月7日(木)香椎保育所さくら組(年長児)40名と先生6名と保護者8名



山本さんの干潟の話聞いたあと、バードウォッチングをしました。望遠鏡でミヤコドリ、ダイサギ、コサギなどを見ました。干潟に入ると早速手に持ったスコップで砂を掘り始めていました。「どこにカニがおると?」「先生、カニがおった!」と立ち止まっています。沖のアサリ掘りの場所まではなかなか行き着きそうにありませんでした。やっと沖まで行くと、水の中の砂を触って、「この水は冷たいね」と感触を楽しんでいました。海の広場に戻るために歩いていると、保護者の方が率先してゴミを集めてくれました。山本さんのカモ笛が人気で、帰る時に吹かせてもらって喜んでいました。平松さんは草笛を披露しました。(有江)

ハマナデシコ (ナデシコ科)

海岸に生える多年草です。茎は直立し、高さは20cm~50cm。厚い葉は光沢があります。花は紅紫色でかたまって咲きます。真夏のアシ原はやぶになっており、なかなか踏み込めません。アシ原の中道に咲くために、美しい花ですが真夏には見る機会に恵まれません。しかしハマナデシコの花は冬まで長く咲いており、秋の終わり頃にアシ原が枯れてきてから、ハマナデシコの花を見ることとなります。アシ原以外では海の広場の端、奈多護岸の道や五丁川護岸の道、塩浜のクリークの土手にも咲いています。これらは真夏に見ることができます。夏が良く似合う元気な花です。



ハマナデシコ

ツメタガイの卵塊 (砂茶わん) (タマガイ科) 直径5cm。



ツメタガイの卵塊 (砂茶わん)

ツメタガイは内湾の浅いところから水深10mくらいの砂泥底に多くいるそうです。殻は半球形でカタツムリのような感じです。砂中にすむ二枚貝や巻貝を抱きこんでこれに穴をあけ、中の肉を食べます。卵塊は衿状で底のない茶わんを伏せたような形から「砂茶わん」と呼ばれています。和白干潟では雁ノ巣海岸に多くすんでおり、砂茶わんもよく見つかりますが、海の広場方面ではあまり多くはすんでいないようです。5月の観察会で初めて見ました。子どもたちが珍しがっていました。ツメタガイはアサリを食べるので嫌われていますが、食用になるそうです。どんな味でしょうか、食べてみたいものです。

イソシギ (シギ科) 全長20cm。

留鳥として1年中和白干潟で見られます。河口や干潟沿岸に生息していて、繁殖期にはつがいで行動し、非繁殖期には1羽でいるのが普通です。頭や背は褐色で、体下面は白く、白色は胸側部分に入り込んでいて、他のシギ類と区別できます。浅い水辺を尾を上下に振りながら歩き、水生昆虫やゴカイなどを食べるそうです。和白干潟では、和白川河口や唐の原川河口、アシ原付近の沿岸でよく見られます。しかし、1羽や2羽くらいしか見られず、総数は少ないようです。「ピーイ」「チーリーリー」と細い声で鳴いて飛ぶ姿が、河口の護岸でも観察できます。



イソシギ

夏の和白干潟のしぜん情報

アシ原: アシは丈高く伸びて鮮やかな緑色です。やぶになるので、アシ原中道には入りにくくなります。ハマナデシコやハマゴウの花が咲きます。牧ノ鼻の海岸にハマボウの黄色い花がたくさん咲きますが、海の広場付近にも広がっています。

干 潟: 暑さとともにミズクラゲが増えてきました。沿岸に打ち上げられています。アカクラゲもいます。ウミニナの仲間が干潟上を埋め尽くしています。潮が引くと沖の干潟上にはタマシキゴカイの糞塊が月面のでこぼこのようにたくさんできています。浅瀬ではマメコブシガニ。干潟にはコメツキガニの巣穴と砂団子。和白川河口ではハクセンシオマネキ。アシ原付近にはアシハラガニ。和白干潟は生きものでいっぱいです。

水 鳥: 夏鳥として渡ってきたコチドリが繁殖しています。オオヨシキリはアシ原で繁殖しています。近年はコアジサシの姿が少なくなりました。サギ類は夏期に多く見られます。6/27にはミヤコドリがまだ9羽残っていました。越夏するのかもしれないね。



タマシキゴカイの糞塊

「みんなで守ろう！身近な自然を」講演

3月6日（火）、香椎公民館ふれあいサロンで、61名の参加者を前に、和白干潟を守る会山本代表が第2回目の講演を行いました。最初に主催者が用意したYouTubeの「海と日本プロジェクト」で山本さんのクリーン作戦でのインタビュー映像を見てから、得意のマジックで「立花山・唐原川・和白干潟の保全活動」を紹介。干潟の植物や鳥、貝、カニなどをスライドで見せながら解説しました。また、山本さん作のきりえ絵本「ひがた だいすき！」の作者自身による読み聞かせも大好評でした。近くの香椎保育所の先生5名も参加されました。（河上）



雁ノ巣ヘリポート基地建設の
公聴会を傍聴

福岡空港で格安航空機などの発着が増え、ヘリコプターと競合する時間が増えたため、安全面、効率などで和白海域に面する雁ノ巣地区に専用ヘリポートを移設する計画があります。守る会は環境への影響を懸念し、2016年より情報収集してきました。環境影響評価の実施結果は2018年3月に公表され、4月17日に公聴会が「コミセンわじろ」で開かれました。あらかじめ応募した4人の公述人は、ヘリポート関係者のみで、全員移設賛成意見でした。傍聴者は関係者を含め30名足らずで、守る会から2名が傍聴しました。環境影響調査報告では、渡り鳥、騒音問題など「影響は少ない」となっていました。鳥は43種の飛翔が確認されたが、鳥は人為的影響がある区域を避けて飛ぶ傾向があり、影響はきわめて少ないとなっています。今後工事に着手し、来年12月から供用開始の予定です。環境影響評価についての疑問など問いただす時間も無いまま手続きが進んでおり、市民による監視は今後も必要と思われる。（今村）

第6回「唐原川お掃除し隊」に47名参加
山・川・海の流域会議主催

5月12日（土）晴天に恵まれ、唐原川上流の九産大前付近と下流の唐原川河口付近の2グループに分かれて、唐原川の清掃活動を実施しました。



年々、地域の方々の参加が増え、心強く思いました。香住丘校区の住民と守る会は唐原川河口を担当し、町内会が新しく購入した胴長で守る会のメンバーも川に入り、清掃しました。上流の九産大前付近では、産大生が胴長をはいて川に入りました。地域の町内会長が軽トラでゴミを収集し、町内住民の方々の積極的な協力もあって、上流では燃えるゴミが20袋、燃えないゴミが10袋、丸太や傘など、下流の河口では燃えるゴミが23袋、燃えないゴミが12袋の他、自転車やじゅうたんなどもありました。ゴミは毎年清掃を続けてきた成果もあり、少なくなっている傾向にあります。立花山の源流から約4kmの短い川ですが、清流の流れる川を目指し、流域全体の自然を守り育てていきたいと思いません。（松田、山之内）

「コミセンわじろ」で和白干潟の写真展



5月11日から6月1日まで、和白干潟の自然を撮影した写真16点と大きな「クロツラヘラサギとミヤコドリ」の群れの写真を、福工大前駅2階の「コミセンわじろ」

のロビーに展示しました。毎年ロビーを飾る写真展はコミュニティセンター利用者にも好評で、駅に出入りする人もガラス越しに中をのぞいて、入ってこられ、鑑賞されていました。（今村）

気が付いたらあなたも電話してください！

海辺のゴミやアオサなどをとってほしい時・自分でゴミを拾った時

092-282-7146（港湾空港局・理財課）

沖のアオサをとってほしい時

092-282-7153（港湾空港局・環境対策課）



＊ ＊ お 願 い ＊ ＊

干潟でのゴルフやラジコンの練習はやめましょう！
とても危険です。

干潟で火気を使うことはやめましょう！
（花火、バーベキュー、ゴミを燃やすこと）
火災の危険があります。

犬のフンの始末は飼い主がしましょう！

弱った野鳥を見つけた時 092-513-5611（福岡県筑紫保健福祉環境事務所・地域環境課）

092-643-3367（福岡県環境部・自然環境課・野生生物係）

2018年3月

- 3/3 (土) 和白干潟通信126号編集会議
- 3/5 (月) 平成29年度エコパークゾーン水域利用連絡会議
- 3/6 (火) 和白干潟の講演(香椎公民館ふれあいサロン)
- 3/8 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 3/10(土) 山・川・海の流域会議総会参加
- 3/11(日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
- 3/21(水) 和白干潟通信126号編集会議
- 3/24(土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 3/26(月) 唐原第1雨水幹線築造工事現場見学会参加
- 3/31(土) 日本自然保護大賞受賞式とシンポジウム参加(東京都)
JAWAN 総会とシンポジウム参加(千葉県船橋市)



きりえ「初秋の風」

2018年4月

- 4/1 (日) 三番瀬見学会参加(千葉県船橋市)
2018年春期シギ・チドリ調査1回目(今津)
- 4/3 (火) 観察会グループ会議/30周年記念イベント準備会第1回
- 4/8 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
- 4/9 (月) イオン黄色いレシートキャンペーン2017年度分贈呈式
- 4/10(火) 観察会案内発送会/イオン黄色いレシートキャンペーン
- 4/11(水) イオン黄色いレシートキャンペーン
- 4/12(木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 4/16(月) 2018年春期シギ・チドリ調査1回目(博多湾東部)
- 4/17(火) 干潟通信126号発送会
雁ノ巣ヘリポート公聴会参加(コミセンわじろ)
- 4/21(土) カノコソウ観察会参加(山・川・海の流域会議)
- 4/22(日) 2018年春期シギ・チドリ調査2回目(今津)
- 4/28(土) 定例会議・「干潟・湿地を守る日」「春のビーチクリーンアップ」参加の和白干潟クリーン作戦と自然観察

2018年5月

- 5/1 (火) 2018年春期シギ・チドリ調査2回目(博多湾東部)
- 5/6 (日) 2018年春期シギ・チドリ調査3回目(今津)
- 5/8 (火) 30周年記念イベント準備会第2回
- 5/10(木) 和白干潟保全のつどい学習会参加(あいたか橋)
- 5/11(金) イオン黄色いレシートキャンペーン
- 5/12(土) 唐原川お掃除し隊(山・川・海の流域会議)
- 5/14(月) 和白小学校5年生の和白干潟自然観察会
- 5/15(火) 2018年春期シギ・チドリ調査3回目(博多湾東部)
- 5/24(木) ちどり保育園くじら組の和白干潟観察会

ご案内

くすだひろこ きりえ展 和白干潟の詩

日時: 7月2日(月)~7月31日(火)
9:00~15:00(土日祝休)

会場: 西日本シティ銀行和白支店
福岡市東区和白丘1-1-8

TEL: 092-607-6621

和白干潟のきりえ作品を10点ずつ
2回に分けて展示します。



きりええはがき13集「大好き!和白干潟」
を3月に発行しました。

12枚セット1,000円。

申込み: 住所、氏名、電話、冊数を
書いてFAX: 092-606-0012へ

(くすだ)

干潟のつぶやき「干潟のお掃除ありがとう！」

干潟に漂着するゴミには空き缶や空きビン、ペットボトルなどの人工ゴミや、アオサ・草木などの自然ゴミもあります。これらのゴミは、放っておけば干潟の生きものたちを傷めることとなります。和白干潟では30年も前からこれらのゴミを回収するクリーン作戦が行われています。近年は、環衛サービス(株)、西日本シティ銀行和白支店、九州産業大学宗像ゼミの学生さん、福工大附属城東高校の皆さんなど、多くの方々が干潟を掃除してくれています。皆さんのおかげで2000年以降、ゴミの回収量も1000袋を越えました。



和白干潟の清掃活動

皆さん、いつも干潟を掃除してくれてありがとうございます。干潟の生きものたちも感謝しています。しかし、よく見ると2012年を境にゴミの回収量が少しずつ減ってきているようです。もしかして福岡市民のマナーが向上してゴミのポイ捨てが減ったせいかもしれませんね。(山之内)

4月28日(土)「干潟・湿地を守る日2018」春のビーチクリーンアップ2018」参加

参加者52名、回収ゴミ97袋。本日のクリーン作戦は、「干潟・湿地を守る日」「全国春のビーチクリーンアップ」参加のクリーン作戦でした。九産大の宗像ゼミ、澤田ゼミの先生と学生のほか、西日本シティ銀行和白支店の方などの参加がありました。初めに「干潟・湿地を守る日2018」の宣言文を読みあげ、皆さんの賛同を得てから、清掃の範囲や方法などの説明をして始めました。

いつものように、ゴミ袋、ソリ、一輪車、リヤカーなどを携えて清掃作業に入りました。1時間半ほどで干潟は見違えるように綺麗になりました。最後にお茶で喉を潤してから本日の成果を報告、参加者の感想を聞いた後、記念写真を撮り散会しました。感想では、全体に思ったより人工ゴミが少なかったとのことでした。和白干潟のクリーン作戦のノボリを新しく作り替えました。黄色地に青字のノボリです。海の広場入り口の目印に2か所立てて、清掃しています。(田辺)



6月10日(日)「ラブアース・クリーンアップ2018」参加



30名参加、回収ゴミは15袋。今年も昨年に続き、和白4区町内会の方々も参加されてのラブアース・クリーンアップ。ゴミの回収ルールを説明した後ゴミ拾いにかかりましたが、5月末のクリーン作戦で約300名が徹底的にゴミを拾ったことも影響しているのか、ゴミは少なく、クラゲの死骸が足の踏み場も無いほど打ち上げられていました。1時間半ほどで終了し、集まったゴミはプラスチックゴミ5袋、燃えるゴミ7袋、空き缶・ビンなどのゴミ2袋、陶器のかけらの土囊1袋でした。和白中学校の2年生女子がお母さんと参加していて、守る会の会員の子どもの同級生と言うことで話が弾んでいました。(今村)

イオン黄色いレシートキャンペーン2017年度の贈呈式に参加

イオンでは、毎月11日を「イオンデー」として黄色いレシートが発行されます。そのレシートを自分が応援したいボランティア団体の「投函ボックス」に入れると、その団体にレシート金額の1%相当の品物が寄贈されます。4月9日には、イオン香椎浜店1階の特設会場で2017年度のキャンペーン贈呈式が行われ、店長さんから各団体の代表者にギフトカードが渡されました。

守る会は山本代表がギフトカードの贈呈を受けました。贈呈式の中での団体アピールでは、山本代表が紙芝居で和白干潟と守る会活動の紹介をして、日本自然保護大賞を受賞したこともお知らせしました。(田辺)



守る会問い合わせ窓口 ホームページ: <http://wajirohigata.sakura.ne.jp/>

入会 / 観察会 (申込等)	山之内 芳晴 Tel. 090-8412-2663
クリーン作戦	田辺 スミ子 Tel. 090-1346-0460
広報 / 調査 / 定例会議	山本 廣子 Tel/Fax. 092-606-0012
干潟まつり	今村 恵美子 Tel/Fax. 092-942-5282



【編集】 高田将文・山本廣子・山之内芳晴・田辺スミ子・今村恵美子

《カット》くすだ ひろこ 次号は2018年10月に発行予定

【編集後記】 一大イベント「守る会30周年・日本自然保護大賞受賞記念シンポジウム」を6月24日無事に、有意義に、楽しく終えることができました。企画から3か月、団結力を感じた日々でした。次回の節目はラムサール条約登録のお祝いです。目標目指して頑張りましょう。(今村 恵美子)



お知らせコーナー

和白干潟の生きものやハマボウを見る会

日時：7月22日(日) 10:30～12:30

集合：和白干潟・海の広場(東区和白4丁目)

主催：和白干潟保全のつどい(守る会など4団体)

問い合わせ：090-8412-2663(山之内)



国際ビーチクリーンアップ参加ゴミデータ調査

世界一斉の環境保護キャンペーン。海岸のゴミを調べます。クリーン作戦時に実施。ぜひご参加ください!

日時：9月22(土) 15:00～17:00

集合：和白干潟・海の広場

主催：和白干潟を守る会

問い合わせ：090-1346-0460(田辺)

和白干潟のエコチャレンジ

“アオサのお掃除大作戦”

日時：9/8(土) 13:00～15:00、

9/23(日) 13:00～15:00、

10/13(土) 15:00～17:00

集合：和白干潟・海の広場

主催：和白干潟保全のつどい

問い合わせ：090-8412-2663(山之内)

定例スケジュール



定例会議(7/28、8/25、9/22)

毎月第4土曜日10時半～13時 守る会事務所にて開催

以下は参加自由です。仲間が待っています!

クリーン作戦と自然観察(7/28、8/25、9/22)

毎月第4土曜日15時～17時 和白干潟・海の広場集合

長靴があると便利 駐車場なし

和白海岸探鳥会(8/12、9/9、10/14)

毎月第2日曜日 9時～12時 JR和白駅前和白公園集合

主催：日本野鳥の会福岡支部 参加費：一般は300円、中学生以下は無料

会員募集中!

年会費 個人 2,000円/団体 5,000円

カンパの協力お願い

郵便振替 01720-4-23860

和白干潟を守る会

ボランティアへのお誘い

和白干潟の清掃、鳥類調査のお手伝い(車の運転、記録)、パソコンを使った資料作成、観察会のお手伝い(写真撮影)等です。参加をお待ちしています!



和白干潟の鳥たち(その83)

ダイサギ(コウノトリ目サギ科 Great Egret) 大鷲 [全長90cm]

ダイサギは和白干潟では一年中見られますが、夏期が多いようです。近隣の林で他のサギ類と混じってコロニーを作り、昼間に和白干潟に食事や休息に来ているようです。満潮時には和白干潟の後背林の木の枝にたくさんのサギが止まって、白い花が咲いたようです。潮が引いてくると、浅い水の中をゆっくり歩いて魚を探し、くちばしで挟んだり刺したりして獲ります。飛び立つ時に「ゴアッ」と鳴きます。白サギ類の中では最も大きくて、くちばし、首、足ともに長いです。夏羽では背から「みの状」の飾り羽が出て、くちばしは黒く、目先は青緑色になります。冬羽では飾り羽は無く、くちばしは黄色くなります。ダイサギ、コサギ、アオサギが和白干潟で良く見られるサギ類で、カラシラサギやチュウサギ、アマサギなどはまれに見られるサギ類です。(山本 廣子)



写真撮影：三宅 僚